

1 まちづくり懇談会 笠置

日時：平成 29 年 11 月 6 日（月）午後 7 時～8 時半

場所：笠置コミュニティセンター

4. 「はたらく」「たべる」「くらす」の政策について

■市長 笠置町について。

笠置町の人口の推移。1567 人、平成 17 年。平成 28 年に 1292 人。世帯数は 433 から 448。平成 17 年の 1 世帯当たり平均人口は 3.6 人、平成 28 年には 2.9 人。家族の数が減っている。もしくは世帯が分離している。

平成 17 年を 100 としたとき、恵那市全体では 9.6%の減。笠置町は 17.5%の減。それより下は飯地町、一番下は上矢作町。どちらも恵那市全体よりかなり減っている。

笠置町で生まれる子どもの数。平成 18 年 10 人、10、7、6、8、6、4、8、5、4、2、6 で、多くはない。ただ、激減しているわけでもなく、年によって波がある。5 人から、28 年は 6 人なので 20%増えている。全体は増えたり減ったりしている。

樋田会長から心配の声があった。リニア中央新幹線で中部電力が送電線の計画をしている。愛岐幹線から取り出し久須見町地内に変電設備を設け、木曾川を渡り笠置町を通り中津川から車両基地に向かって送電される。これについては対策委員会も設けられている。ルートの変更も含めて今協議中だ。市としても皆様方の声をまとめていただければ中電に届けるし今もやっている。皆さんに納得いただける形で進める。送電線の鉄塔イメージはこういうもので 60m 級のものが建つ。延長は 4、5km の中に 10～12 基が建つと公表されている。

笠置峡のボート・カヌーの誘致。平成 29 年は調査業務、設計業務、仮設の栈橋の設置工事でいくらかの予算が計上してある。全長約 7km ぐらいの競技だ。明治安田生命と中部電力がついこの間ここでキャンプをした。そのとき市長室に寄って、ものすごくいいと。日本でもトップクラスのいい場所だという言葉をいただいた。いろいろな方にオリンピックまでに来てもらえるよう努力したい。必要な整備は行っていきたい。

寺田石山線は今日も通ってきたが、改良工事は今年は測量設計で 540 万円の予算を計上した。

笠置線の道路改良は支橋改良を含めて全体の事業費 2500 で大きな事業費を予定し、今

年は設計として400万の事業を発注している。

林道整備は、何カ所か改良区間があり全体で6400万予定している。26年から順に行なって来ている。

笠置コミュニティセンターの改修は昨年に引き続き今年も増築と造成で7400~7500の予算を消化している。

話題のクライミング。入山者は平成25年に4500人、平成28年に約1万人弱集まった。入山料は300円で、300万円の経済効果だ。ただ、一般の観光地は1時間当たり1000円の消費がある。クライミングに限らず、入山料ではなくここに新たなサービスができないか、お金を使ってもらう仕組みができないか考えるのもいい。1万人が1000円使えば1千万、2000円なら2千万。いい案があれば市も協力する。

ユズ。組合では今年9.5t仕入れたということで、農家数は40戸。はたらく、たべるの、たべるのところでユズの可能性はあると思う。ユズジュースになったりいろいろところで加工されている。付加価値を付けて笠置の大きな産業の一つにしたい。市も応援したい。

笠周振興計画の進行状況。笠置山整備事業、ボルダリングエリアにトイレを設置するのは28年に行なった。東雲大橋の交流広場。整備候補地の測量まで行い、その後は今検討している。観光マップは26年に完了。市道笠置線の整備は、施行箇所2カ所で実施中。笠置山林道、寺洞林道の整備も順次実施中。37号線、一部改良工事が完了。あとは地籍の調査が必要。寺田石山線の整備も現在実施中。

5. 意見交換

■司会 挙手をして、地区名を名前を言ってから質問してほしい。

■毛呂窪・安江 分かりやすく説明をいただいた。人口減少の話があった。少子高齢化で笠置の人口が減っているという。1292という数字がある。10月の資料で1262という数字を見た。20%の減少だ。この地区で人口減少と併せて過疎化が進んでいる。今年の1月には現在60歳の方が5年先に、現在でも40%の高齢化率だが、50%になるという予測があった。笠置が過疎化、人口減少がこれから起きることについて、実際に感じることはないの、まちづくりの中で、過疎化、限界集落という言葉と併せて、シミュレーションして予測を立てて、これからこの笠置はどういうことを考えていかないといけないのか、住民がそういうことを考えられる資料を考えているかどうか。笠置だけでなく恵那市全体のこういう中山間地域では言えることだと思う。

■市長 現時点で笠置の高齢化率は40%を上回っている。大変な状況がこれから来る。ときどき暇なときに読んでいる本で、河合さんという方が書かれた『未来の年表』という本がある。日本中の平均の値だが、衝撃的だ。2020年には女性の半分以上が50歳を超える。

2024年には全国民の3人に1人が65歳以上。2027年には輸血用の血液が不足する。2033年には3戸に1戸が空き家になる。2039年には火葬場が不足し、2040年には自治体の半数が消滅する。ということが書いてある。これは一つのモデルだが、これから先高齢化が進む、過疎化が進む、人口減少が進む中でどういうことが起きるかは、いろいろな資料を基に恵那市も考えないといけない。2年前に総合計画を作ったときは、450人の子どもを産もうということで作ったが、現時点では不可能に近い。その意味で、市の総合計画を大きく見直すことからスタートになるのかなと思っている。

■毛呂窪・吉田 民生委員もしている。暗い話、限界集落のことなど出て寂しいばかりだ。先日もずっと田んぼをしていた一人暮らしの94歳の女性が転落して亡くなった。目が行き届かない。悲しいことだが現実だ。これから真剣にみんなで考えていかなければいけない。

新東雲大橋ができ、昔は道の駅ということで私も熱が入った方だが、その先が、第3次計画まであり、第1次が丸池道路、第2次が新東雲橋、第3次が蛭川の博石館へ抜ける橋と聞いていたし、県もそれでやるということは聞いていたが、最近はそんなものはできるものかという冷たい返事だ。ということは、道の駅で熱が入って我々が考えていたことは一体何なのか。道の駅は難しいとは思いますが、道路は先に続いていないと意味がない。蛭川にブレーンが大勢いる。林かろう先生、村長の頃から蛭川への玄関だということでこの構想が持ち上がったのだが、今は本当に残念だという声を聞いている。今の道路の続きはあるのか、どのような構想なのか。

■市長 この事業は恵那蛭川三河線という県道で、県の土木にも要望しているが、いくつか課題がある。一つは中津川市の区域に入ること。中津川市としてはあまり必要を感じていないという噂もある。恵那の土木事務所と詰めてはいる。県の意向による。要望はしていく。リニア中央新幹線のアクセスを考えると、リニアの南に新しいインターチェンジができると聞かすが、そこ中津川のインター、恵那のインターが下呂方面から来たときの大きなアクセスになる。恵那のインターに向かっては蛭川三河線は有効な道路だと思うし、バイパス機能も含めて活性化の一つになると考えているので、そういうところを訴えて要望していく。今のところ見通しでできるという見込みはいただけない。

■毛呂窪区長・西尾 市長がリニアの送電線のことを言われた。毛呂窪ではそのことが大変だ。中電の担当者も何度も来て説明してくれているが、無理な説明はたくさんある。私どもが言うと、「それは無理だ」と、なかなか聴いてくれない。来てくれる人の立場では聴けないかということもあると思う。市長から中電の社長か誰かに、地元のことをちゃんと聴けと言っていたきたい。

■市長 送電線の件は市の担当も同席しており、その場の状況も含めてメモしている。私

もいくつか聞いている。分かっているつもりだ。市としては中電の側に立って無理なお願いを地元にするつもりはない。皆様に納得していただけるようお手伝いしたい。情報を密にしてお互いに協力し合って進めていきたい。

■毛呂窪・林 恵那市長は綿密にこの計画を立てていただき感動している。数字の大きいことに驚くばかりで主婦としてはピンと来ないが。人口減少は深刻な問題だが、私は観光協会や振興会に入っているが、苦になるのは、送電線のこととも言われたが、送電線イコール太陽光の関係で、かなり景観の問題もあるし、千㎡以上だと問題ということで相談をかけられるようだが、それ以下だと簡単に太陽光が建ってしまう。私の家の近くにもそういう傾向がたくさんある。特に大田地区はひどい。どこを見ても太陽光だ。私の家の近くでもそういう計画があるようだ。その辺をもうちょっと、飯地の柘植議員にも言ったが、細かいことまで国へは行かないということで、ぜひそういうことも少し考えていただきたい。

■市長 太陽光の、特に住宅の屋根に上げるもの以外の、田んぼや山を切って造るある程度大規模なものは、景観を阻害する、あるいは開発を伴わないにしても水が速くなるとかいろいろな課題があることが最近分かってきている。これを何とかできないかという話も一部で出ている。ほかの地域では町を挙げて太陽光発電の規制をしてほしいという話もあるし、研究もしている最中だ。笠置地域の皆様で、太陽光発電の大規模なもので山を切ったり田んぼの上をやったり空き地を使うことについて、これは少し規制した方がいいんじゃないかという議論があれば、町を挙げて要望してほしい。柘植先生に相談されて議会から声を上げていただくのもいい。市としては明確に規制するところまではいっていないが、研究もしているし、地元がこれはいかんということなら規制することも可能だと思う。

人口減少について。まず高齢化。65歳以上が高齢者と言われているが、65歳以上になっても働ける環境づくりが一番大事だと思う。恵那市の平均寿命は男性は県内で一番短く78歳余、健康寿命はそれより9歳短く、70歳を超えると男性はどこかしら故障が出はじめるというのが恵那市の現状だ。働いて体を動かして運動しておいしいものを食べ、何とかまず健康寿命を延ばしていただくには、働く場所づくりが必要だ。当面、男性はまず高齢者の働く場所づくりが必要だ。女性は子育てもしながら働ける。それから年をある程度重ねても働けるというところも作っていくのが大事だと考えている。

■毛呂窪・安江 小さな話だと思うが、上に県道の72号線が新しく新東雲橋が開通し大変いい道ができたが、その後、旧72号線や笠置橋から東雲橋の間の前の県道、要望して草は刈っていただいたが、東雲橋を渡った時点で草ぼうぼうで、自分の家の周りで草ぼうぼうだと何というところだと思うが、よそから来て恵那市に入った途端に草ぼうぼうで、何とみすばらしいと思っていた。何度も言って刈っていただいた。県道なので、見ていただくとよく分かるが、恵那市のキヨシの床屋から入ってくる道路、県外の車が土日になるとすごく多い。大変危険なので、いろいろな方をお願いしてやっていただいた。道の愛護

の方ではやれないので、来年以降もこちらからくどいことを言わなくていいように刈っていただければ有り難い。

■副市長 この話は聞いている。誰も手が出せないところだと聞いている。要望を聞き、しっかりやっていく。

■市民 吉田 救急態勢。ある資料を見ると、笠周で10分以内に救急車が到達できるのは東雲橋の付近だけだ。飯地の奥の方だと20何分だと。笠周で要望があれば、分署は建設される望みはあるのか。

■消防長 合併当初から、分署建設についていろいろ検討されたがこれまで実現せずに来た。検討委員会を立ち上げ、恵那市全体で見て今の救急態勢がどうなのかということそれぞれの委員に意見を伺いながら現在進めている。その中で出ているのが、笠周地区の救急態勢について早期に整備すべきだという意見もいただいている。分署建設という形になるのかまた進めることができていないが、何とか笠周地域の救急態勢を確立すべく、現在でも取り組めるところはないか、皆さんの意見を伺いながら進めている。この検討委員会の進み具合によっては何とか来年度から進められるところは進めていきたい。

■市議 72号線の東白川線。県の土木事務所に、飯地の方が道路を直してほしいと要望があるので行っており、そこで話を聞いている。橋を蛭川側に架ける構想が昔あった。それも含めて3つぐらいのルートの基本計画で調査している。予算、利便性を考え、どのルートがいいか検討している。作ってない部分の中津川市が多い。恵那市は笠置農道を直すということになるとほとんど今できてしまっている。恵那市は簡単に動けないところがあるが、事業として全く見通しがいいわけではない。

■司会 時間になった。もしほかにあれば振興事務所に来てほしい。

6. 市長お礼のあいさつ

■市長 3連休の中の月曜日のお忙しい中おいでいただきありがとうございました。まだ言い足りないことがあれば、振興事務所を通じて伝えてほしい。私はいつでも話は聴きたいしできることは何でも取り組みたい。引き続きお世話になる。

■振興協議会 樋田 まだ言いたいこともあると思う。メモにでもして出してほしい。市長は聴く耳は持っておられると言われたのでそれを頼りにしたい。ここに1時間半座っていると、冬は冷房完備というのが改善され、快適に過ごすことができた。冬は暖房、夏は冷房が入る施設に調いつつある。2月末に改修中の調理室ができ交流室ができ図書室が完成する。やっと一人前の通常使いやすい施設になる。市では力を貸していただき有り難い。市民の立場で姿勢を運営していくという思いが私には伝わってきた。お願いすべきことはくどいぐらいにお願いしていく。1時間半ありがとうございました。

[閉 会]